

# 2023 年度 FD・SD 活動報告書

## 全学の取り組み

### 全学 FD 研修

	開催日	テーマ（講師）	参加人数
第 1 回	6 月 21 日（水）	「2025 年度 新カリキュラム（共通科目素案）説明会」 教育改革支援センター長 西片 聡哉 教授	288 名 (教員 217 名、 職員 75 名)
第 2 回	7 月 21 日（水）	「KUS Faculty & Future Faculty Development Workshop」 東京大学 大学総合教育研究センター HERVAS NICOLAS GABRIEL 特任准教授	21 名 (教員 14 名、 院生 7 名)
第 3 回	8 月 30 日（水）	「『2022 年度授業評価賞』表彰式および 今後の授業改善に向けた取り組み」 教育改革支援センター長 西片 聡哉 教授	178 名 (教員 178 名、 職員 0 名)
第 4 回	9 月 5 日（火）～ 9 月 6 日（水）	大阪大学等との合同「授業づくりワークショップ」 大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 学位プログラム企画室 教授、スチューデント・ ライフサイクルサポートセンター 教学支援部長 佐藤 浩章 教授 ※本学カリキュラム改革アドバイザー	10 名 (教員 10 名、 職員 0 名)
第 5 回	10 月 2 日（月）～ 10 月 31 日（火）	授業公開・見学	210 名 (教員 200 名、 職員 10 名)
第 6 回	1 月 17 日（水）	「カリキュラムツリー作成ワークショップ」 大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 学位プログラム企画室 教授、スチューデント・ ライフサイクルサポートセンター 教学支援部長 佐藤 浩章 教授 ※本学カリキュラム改革アドバイザー	50 名 (教員 35 名、 職員 15 名)
第 7 回	2 月 13 日（火）	「アクティブ・ラーニングを実践するための授業デザイン」 大阪大学 キャリアセンター 副センター長 家島 明彦 准教授	145 名 (教員 144 名、 職員 1 名)

## 全学 SD 研修

	開催日	テーマ（講師）	参加人数
第1回	6月13日（火）	「研究に関わるコンプライアンス研修」 研究・連携支援センター長 小関 敏彦 副学長 研究・連携支援副センター長 高瀬 尚文 教授 研究・連携支援センター 久島 真理 部長	287名 (教員239名、 職員48名)
第2回	7月18日（火）	「本学での障害学生支援」 障害学生支援室 川端 康宏 課長補佐 保健室 藤原 千晴 氏	286名 (教員201名、 職員85名)
第3回	9月15日（金）	「大学で出来る自殺予防」 京都市こころの健康増進センター センター長 波床 将材 氏	254名 (教員172名、 職員82名)
第4回	8月22日（火）	「障がい者雇用の現場で意識すること」 京都障害者雇用企業サポートセンター 実践アドバイザー 大前 浩一 氏	284名 (教員192名、 職員92名)
第5回	8月22日（火）	「腰痛・肩こりの予防」 幸務 せい子 氏	245名 (教員174名、 職員71名)
第6回	12月13日（水）	「教職員のためのメンタルヘルスケア」 京都産業保健総合支援センター メンタルヘルス対策促進員 花谷 和雄氏	258名 (教員154名、 職員104名)
第7回	3月7日（木）	「英語の読み書き障害（ディスレクシア）」 武庫川女子大学 村上 加代子 准教授	233名 (教員147名、 職員86名)

## 総括

本委員会が従来から取り組んできた、(1) 学生による授業評価アンケート、(2) FD・SD研修会について、実施・運営を引き続き実施することができた。また、FD研修会として、2023年8月に授業評価賞の表彰式・パネルディスカッションを、規模を拡大して実施した。さらに、秋学期の10月を授業公開・見学推奨月間とし、教職員による授業見学を4年ぶりに行った。授業見学は2024年度以降も実施する予定である。

他に、2023年度の特記事項として以下の点が挙げられる

- ① 2025年度以降の共通科目の新カリキュラム案について、対面およびオンデマンドで説明会を実施し、300名弱の教職員の参加を得て、内容理解の共有を図ることができた。参加者からいただいた意見については、一部を最終案に反映させた。また、新カリキュラムについては、カリキュラムツリーのワークショップを2024年1月に実施した。
- ② はじめての試みとして、大学教員を目指す大学院生を主な対象としたプレFDを7月に英語で開催した。10名を超える教員も参加した。

- ③ 新任・若手教員研修の一環で、大阪大学等と合同で「授業づくりワークショップ」を9月に初めて実施し、10名の教員が参加した。このような研修は、2024年度以降も行う予定である。
  - ④ アクティヴ・ラーニングを実践する教育手法の需要が高まっていることを受けて、2024年2月にFD研修会を開催し、好評であった。今後も継続的に開催することを検討したい。
  - ⑤ 2022年度に引き続き、障害学生支援に関するSD研修会を保健室、障害学生支援室が中心となって複数回開催した。近年、障害を持つ学生の割合が増えているが、2023年度は英語の読み書き障害（ディスレクシア）に関する研修会も実施でき、有意義であった。
- 例年と同様、本学所属団体（大学コンソーシアム京都）によるFD・SD研修会等への参加を支援した。

## 2024年度のFD・SD活動に向けた課題

全般として、2023年度から、教育開発センターが教育改革支援センターに改組され、各学部委員が教育改革部会の構成員ではなくなったため、学部学科FDの企画等について各教員とのコミュニケーションが取りにくいことがあり、情報共有について改善を図りたい。

FD活動・SD活動の具体的課題は下記の通り。

1. 2025年度のカリキュラム改革に向けて、2023年度に策定されたカリキュラムを踏まえ、実施体制や教育方法等について整備を行う必要がある。教育方法については、アクティヴ・ラーニング、ITC活用、または英語による授業等に関するFD研修の実施を検討したい。
2. 各種アンケートの回収率が上がらない理由について、アンケート結果へのフィードバックが学生にとって見えてこない点が上げられる。特に授業評価アンケートでは、授業が終了する頃に実施しているため、現在受けている学生には反映できないと言う問題点も指摘されている。アンケート結果の活用や授業改善を学生に効果的に可視化することが引き続き課題となっている。授業評価アンケートの改善や有効活用については2024年度も各学部学科のFD研修として検討を行うことが望まれる。
3. 今後の社会的な要請として、ダイバーシティを理解し尊重する学内の雰囲気醸成が重要である。障害学生支援や異文化理解等、効果的なSD研修を実施し、教職員のみならず、学生に対しても意識が向上できるような方策が必要と思われる。

以上